

# インパクトの可視化の取り組みについて

---

2024年12月3日

アサヒグループホールディングス



1. 背景と目的
2. 取り組み内容
3. 今後の展望と課題

## 1. 背景と目的

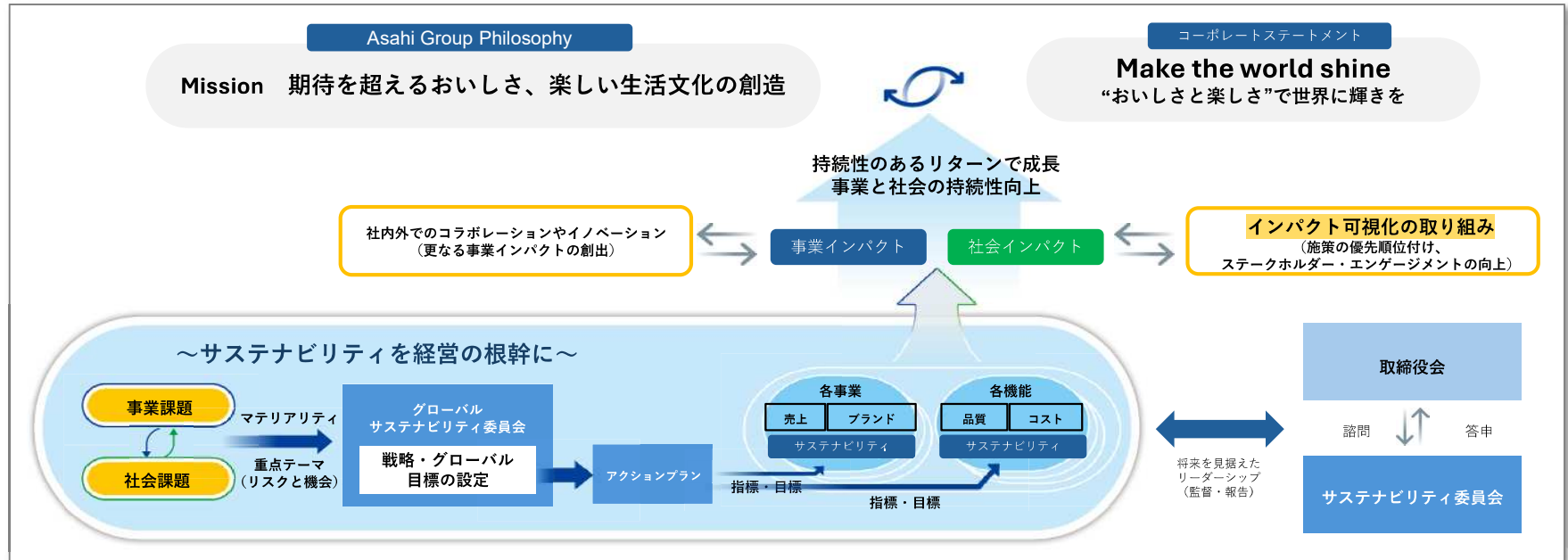
## 2. 取り組み内容

## 3. 今後の展望と課題

# インパクトの可視化を取り組む背景

- アサヒグループは、**"Asahi Group Philosophy"**の実践を通じて企業価値を持続的に高めている。そのために、サステナビリティを経営の根幹に位置付け、**"サステナビリティと経営の統合"**の実現を目指し、取り組みを進めている。

## ■ アサヒグループのサステナビリティと経営の統合



# インパクトの可視化の目的

事業・社会インパクトを可視化・指標化することで、

- 経営管理できる重要な指標を特定。その指標を施策の優先順位の決定や投資判断、進捗管理に組み込むことで、事業の持続的な成長を実現し、社会へのプラスのインパクト創出を実現する
- より高度化した情報開示をすることで、ステークホルダーとのエンゲージメントを高める

1. 背景と目的

2. 取り組み内容

3. 今後の展望と課題

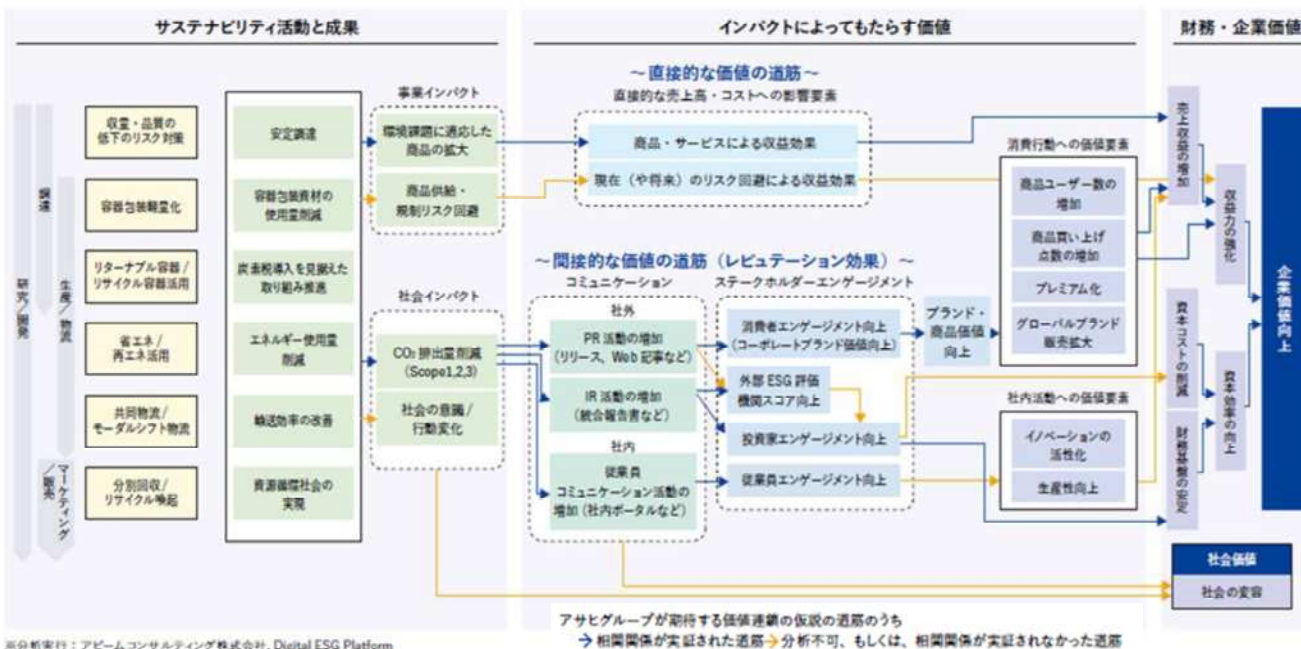
- インパクトの可視化の取り組みは3つのSTEPで取り組んでいる。

取り組み	テーマ	分析手法	内容
<b>①「価値関連図」の作成・仮説検証</b> Foundation Step	<ul style="list-style-type: none"><li>- 環境</li><li>- コミュニティ</li><li>- 責任ある飲酒</li><li>- 人的資本の高度化</li></ul>	価値関連性分析 (俯瞰型分析：柳モデル*)	サステナビリティ活動がどのように企業価値向上につながっているか「価値関連図」で図式化し、相関関係を検証することで活動の全体像を把握する
<b>②事業インパクトの可視化</b> Second Step	<ul style="list-style-type: none"><li>- 環境</li></ul>	独自に開発	「価値関連図」で実証した道筋を財務的に定量化する（可視化する）
<b>③社会インパクトの可視化</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>- コミュニティ</li></ul>	インパクト加重会計	

\* 柳モデル：“CFO ポリシー〈第3版〉：財務・非財務戦略による価値創造（中央経済社2023）”、柳（2023）

- ▶ サステナビリティ活動がどのように企業価値向上につながっているか「価値関連図」で図式化し、相関関係を検証することで活動の全体像を把握する。

## ■ 2023年版価値関連図（環境テーマに一部抜粋）



## ■ 取り組みプロセス





- 社会インパクトの可視化は、「インパクト加重会計」を活用して取り組んでいる。
- なかでも、「製品インパクト会計」のフレームワークを活用  
(「製品インパクト会計」「環境インパクト会計」「従業員(雇用)インパクト会計」の3つ側面を持つ)

## ■ これまでの取り組み内容

	テーマ	取り組み内容
2022年	責任ある飲酒	非開示
2023年	コミュニティ	<p>「ビール酵母細胞壁由来の農産業資材」について社会インパクトを試算。</p> <p><b>コミュニティ：重点活動「持続可能な農産業」の実現</b></p> <p><b>算出目的</b> 農産物生産者のWell-being向上</p> <p><b>算出対象</b> 農産物生産者の農産物の収穫量増加金額</p> <p>農産などから「ビール酵母細胞壁由来の農業資材」に切り替えたことで得る農産物生産者の収穫量増加の影響金額を主な対象として社会インパクトを算出 (「ビール酵母細胞壁由来の農業資材」の製品特性によって創出される社会インパクトを主に算出)</p>
2024年		いくつかの事例について、試算している

## ■ 取り組みプロセス

